

## 多くの市町村で内視鏡検診実施

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会胃がん部会

鳥取県健康対策協議会胃がん対策専門委員会

- 日 時 平成21年7月9日（木） 午後1時40分～午後3時10分
- 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 20人  
 岡本健対協会長、池口部会長、吉中委員長  
 秋藤・伊藤・大津・岡田・尾崎・清水・謝花・藤井・前田・  
 三浦・三宅・宮崎・八島各委員  
 県健康政策課：澤田副主幹  
 健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主事

### 【概要】

精密検査登録条件「食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間50例以上」については、症例数を増やすことで「精密検査登録医療機関」の線引きを行うより、各医師の技術を向上させることがより重要であるという意見が多かった。

4市、12町村で内視鏡検診が実施されている。

受診率50%以上達成には、ここ10年間で倍増した患者自己負担金の軽減、どこでも受診できる体制づくり、住民への啓発方法論の検討が必要である。

れからの検診に役立てて頂けたらと思います。

#### 〈池口部会長〉

胃がん検診実績によると内視鏡検査実施割合がX線検査を上回っている。提起されている諸問題のご協議の程よろしく申し上げます。

#### 〈吉中委員長〉

国はがん対策推進基本計画において、平成23年度をめどに、がん検診受診率50%以上を目標達成としている。鳥取県の胃がん検診受診率は約26%と全国でも上位であるが、実際に50%にどれだけ近い数字を上げることができるのか不安に感じながら、それでも出来ることからやっっていこうと思っている。本日は、忌憚のないご意見をお聞かせ頂き、ご協議の程よろしく申し上げます。

### 挨拶（要旨）

#### 〈岡本会長〉

日本消化器がん検診学会中四国地方会を平成22年2月6日（土）、7日（日）、鳥取県健康会館で開催しますので、色々お世話になりますが、よろしく申し上げます。

本日は、忌憚のないご意見をお聞かせ頂き、こ

### 報告事項

#### 1. 各地区読影状況について（車検診分）

東 部：49回読影を行い、鳥取県保健事業団（尾崎委員）分の読影件数は6,827件で、要精検率4.5%、平均読影件数139件。中国

労働衛生協会分は、読影件数1,754件で、要精検率7.1%、平均読影件数35件。症例検討会を4回開催。

中部：33回読影を行い、読影件数5,394件（前田委員）で、要精検率が8.4%。読影委員のメンバーによって、要精検率が22%から1.8%と格差がある。平均読影件数は163件。症例検討会を4回開催。

西部：33回読影を行い、読影件数は5,161件（伊藤委員）。平均読影数161件、要精検率は6.7%であった。症例検討会1回開催。

## 2. 医療機関検診の読影状況について

東部：鳥取市は胃がん内視鏡検診読影専門（尾崎委員）委員会を設置し、その読影委員と撮影した医師の2名でダブルチェックを行っている。また、X線検査は検診機関ごとに指定された読影医師2名のダブルチェックにより読影を行っている。読影会の開催はないが、内視鏡検診実施医療機関については、年2回は「東部胃がん内視鏡検診検討委員会」において内視鏡写真の画像判定が行われており、精度が向上している。

中部：平成9年度より医療機関検診読影委員会を設置し、中部医師会館において読影会を開催している。倉吉市と平成20年度からは湯梨浜町の医療機関検診分の写真読影を行っており、国保人間ドック分も含まれている。（倉吉市分）

X線検査読影件数：53人 要精検率：30%（16人）

内視鏡検査読影件数：583人 要精検率：11%（64人）

（湯梨浜町分）

X線検査読影件数：7人 要精検率：29%（2人）

内視鏡検査読影件数：609人 要精検率：16%（98人）

読影回数：32回

西部：米子市の場合は、医療機関検診読影（伊藤委員）委員会を設置し、勤務医に読影委員になって頂いている。読影委員3名と撮影した医師で読影会を行う。読影件数10,900件、読影回数は99回で、X線検査読影件数1,690件で要精検率10.2%、内視鏡検査読影件数9,210件で異常なし率43.1%であった。

境港市は健対協胃がん検診読影委員会委員3名と済生会境港総合病院消化器科の医師2名で、境港読影委員会を設置。8月～1月までの間、済生会境港総合病院を会場に月1回の読影会を開催。原則として読影委員2名と検診医の計3名で読影（胃内視鏡検査フィルム・胃X線検査フィルム）を行っている。

読影件数1,984件、読影回数は7回で、X線検査読影件数209件、内視鏡検査読影件数1,775件であった。

平成21年度からは、東部圏域の4町の内視鏡検査の写真読影体制も整備された。

また、中部圏域では、琴浦町については、吉中委員が中心となり、町内検診実施医療機関同士で読影を行い、精度管理に努めている。

北栄町の読影体制を整えて頂くよう、昨年度、健対協より町に要望書を送ったが、その後、進展がなされていない。よって、中部医師会より北栄町に働きかけて頂くこととなった。

## 3. 平成19年度胃がん検診発見胃がん患者確定調査結果について（最終結果）：秋藤委員

（1）確定癌は162例で、がん発見率は0.366%で

あった。

(2) 早期癌は123例、進行癌は39例であった。早期癌率は75.9%であった。

(3) 切除例は150例で、そのうち内視鏡切除が54例であった。非切除例が12例あった。

(4) 前年度受診歴を有する進行癌は、東部9件、西部8件であった。各地区で症例検討を行って頂き、読影上の問題点等について検討して頂く。

#### 4. 胃がん検診精密検査医療機関登録について

平成21年度の登録更新となり、平成20年度中に更新手続きを行った。6月現在で東部72、中部40、西部83、計195医療機関が登録されている

登録基準の一つとして、「食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間50例以上あること。」としているが、内視鏡検査を評価してもらうにはもう少し臨床例数を増やさないといけないという意見と、多くの医療機関に実施して頂くことを考えると、登録医療機関の中には年間50例以上がやっとクリアしているというところもあり、昨年度に引き続き、意見交換を行った。年間症例数の下限を増やすことで「精密検査登録医療機関」の線引きを行うより、各医師の技術を向上させることがより重要であるという意見が多かった。

各地区医師会においては、精度向上の取り組みとして、新規登録医療機関においては、症例の写真を提出して頂き、地区医師会の担当医師によるチェックを行っており、また、東部医師会においては、内視鏡検診実施医療機関について、年2回は「東部胃がん内視鏡検診検討委員会」において内視鏡写真の画像判定が行われており、非常にいい成果を上げているということだった。

実施指針は、フィルム撮影枚数20枚としているが、最近はデジタルのところが多く、パソコンにデータを入れて持ってこられるところが多いので、平均で30枚～40枚ぐらいで、中には100枚も入れて読影会に持って来られるところがある。妥当な撮影枚数は24枚であるということだった。

## 報告事項

### 1. 平成22年度に向けた胃がん検診対策の取組みについて

胃がん検診に占める内視鏡検査の割合は年々増加し、平成19年度には過半数に達しているが、中部圏域は内視鏡検査の割合が22%と低く、がん発見率も0.14%と低い傾向が見られる。

今後の課題としては、胃内視鏡検査に関する抵抗感を解消するため住民を対象とした啓発が必要である。また、内視鏡検診に関わらず胃がん検診の受診率を向上させることが必要である。

以下の意見があった。

平成10年度から、がん検診に係る費用は、老人保健法の国庫負担の適用を外し、地方交付税で措置しているが、国はがん対策推進基本計画において、平成23年度をめどに、がん検診受診率50%以上を目標達成としていること、また、平成10年度がん検診費用をもとに算定した交付税では、近年がん検診にかかる費用が足らなくなっているという現状を踏まえ、平成21年度のがん検診への交付税が倍増した。

よって、ここ10年間で自己負担金が倍増となっているので、交付税の使い方を市町村で検討して頂きたい。また、どこでも受診できる体制づくり、かかりつけ医で受診できるという体制の検討。住民への啓発方法論を市町村保健師と相談していくことも大事である。

鳥取県は、平成21年度事業としてショッピングセンターを会場にして車検診による休日検診と併せてPRイベントを行うこととしている。また、受診率が一番高い市町村に対して、鳥取県知事表彰を行う予定しているという話もあった。

### 2. 胃がん検診従事者講習会及び症例研究会について

鳥取県健康対策協議会が担当して、平成22年2月6日（土）に開催される「第40回日本消化器が

ん検診学会中国四国地方会」を胃がん検診従事者講習会及び症例研究会に当てることとした。

### 3. その他

市町村から厚生労働省にがん検診報告を行って

いるが、この度、早期がんの粘膜内、粘膜外別集計を追加報告することとなった。早期がんの粘膜内か粘膜外かは、手術標本の検索でしか分からないので、健対協が行っている確定調査結果をもって市町村に報告することとなった。

## がん検診受診率50%を目指して

### 第40回日本消化器がん検診学会中国四国地方会 第40回中国四国地方胃集検の会実行委員会記録

■ 日 時 平成21年 7月 9日 (木) 午後 4時～午後 5時40分

■ 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町

■ 出席者 19人

岡本委員長

村脇・池口・三浦・秋藤・石飛・古城・謝花・西土井・藤井・

松田・宮崎・吉中・大久保・三宅・五百川各委員

健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主事

#### 挨拶 (要旨)

〈岡本会長〉

日本消化器がん検診学会中四国地方会を平成22年2月6日(土)、7日(日)、鳥取県健康会館で開催します。先生方のお力添えを頂き、何とか盛会に終えたいと思いますので、よろしく願ひ致します。

#### 決定事項

##### 1. プログラム (日程表) 案について

- ・一般演題の演題数が多ければ、1F研修センターと4F研修室の2会場で行うことも検討する。1題の発表時間は5分。
- ・シンポジウムI「がん検診受診率50%をめざして(仮題)」

当初は各県の保健師にシンポジストになって頂いてはどうかということであったが、市町村

の保健師は平成10年度よりがん検診が一般財源となったころから、保健師ががん検診事業に余りかかわらなくなっている。また、保健師の本学会の参加が非常に少なくなっているため、シンポジストの選定が難しいという意見があった。各県の行政の中心になっておられる方、鳥取県では藤井次長のような立場の方をシンポジストに各県の取組みについて討論して頂く方向はどうかという意見もあり、司会の石飛誠一先生と藤井秀樹先生でシンポジストの構成等について相談して決めて頂くこととなった。また、テーマのねらいを書いたものを送り、一部指定、公募することを検討することとなった。

県内の保健師の参加予定人数についても、県健康政策課を通じて調べて頂くこととなった。

特別発言は山口県の河村 奨先生にお願いする。

- ・会長講演の司会は吉原正治先生にお願いするこ